

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

● 第 5 次行政改革大綱第 1 次アクションプランとの関連	
☐ 有	
☒ 無	

1 ■事務事業の概要

1－1 事務事業の名称	前後駅南口駐輪場整備事業（主要事業）									
1－2 担当	部	総務部	課 又は施設	防災安全課	係	防災安全係	評価票作成者	交通防犯担当係長 村瀬一幸		
1－3 総合計画における施策の体系	①節	都市基盤・産業振興				③基本施策	交通対策		コード	3－1－2
		「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」				④単位施策(中)	駐車・駐輪場対策		コード	3－1－2－2
	②項	道路・交通				⑤単位施策(小)	駐輪場の整備		コード	3－1－2－2－1
1－4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	駐輪場の利用者を対象			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		毎年増加している、放置自転車対策のために安全で快適な交通環境の整備を図り、放置自転車等の防止に努める。			
1－5 事務事業の内容	放置自転車がなく安全で快適な住みよい生活環境を図るため、前後駅南口駐輪場の整備を行い放置自転車の防止を図る。									

2 ■事務事業実施の状況

2－1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み				社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識			
	平成18年度	駐輪場整備にあたり、地元区長等に移転場所、工事方法等について事前説明を行った。			放置自転車がなく安全で快適な交通環境の整備を図るため、自転車等放置防止条例に基づき放置させない環境づくり。			安全な交通環境を確保するため、駐輪場に防犯灯、自転車等の転倒防止対策を設置したことで、市民に好印象を与えている。			
	平成19年度										
	平成20年度										
	平成21年度										
	平成22年度										
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
平成27年度											
2－2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	前後駅南口駐輪等収容台数（台）				250台	320台	放置自転車がなく安全で快適な交通環境の整備を図るため、駐輪場を整備し収容台数の割合。収容計画では、前期目標値と後期目標値は収容台数を設定した。				
2－3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	活動実績 a（収容台数）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b（千円）	320									
	人件費 c（千円）	7,055									
	合計コスト d（b＋c）（千円）	852									
	単位コスト d／a（千円）	7,907									
		収容1台当たり25		当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明	→ 平成18年度事業完了。
---------------------	---------------

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2－4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績（単位）	320(台)									
	後期目標値 に対する達 成度（％）	100(%)									

3 ■事務事業の自己評価結果

3－1 評価結果 (アウトカム自己分 析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度 担当課評価	A									

- 4段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

①必要性（必要な事務事業であるか）
②公共性（公が実施する意味があるか）
③妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
④効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
⑤有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
⑥市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

		今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
3－2 評価の内容	平成18年度	従前の駐輪場は、駅に近く利便であったが離れたところに整備したため、放置自転車が増えることが課題である。		放置自転車がなく安全で快適な、交通環境整備を進めるため、駐輪場に駐輪するよう指導する。	豊明駅、前後駅の駐輪場所の啓発活動及び盗難防止対策が重要である。
	平成19年度				
	平成20年度				
	平成21年度				
	平成22年度				
	平成23年度				
	平成24年度				
	平成25年度				
	平成26年度				
	平成27年度				

4 ■事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
4－1 総合評価の 結果	平成18年度	A	事業完了
	平成19年度		
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		